

1. 佐賀県武雄市の概要

人口:49,357人 世帯数:18,002世帯 面積:195.4km²

【近年の傾向】

武雄市は、平成18年3月に1市2町が合併し、新市としてスタートしました。

この間、現在に至るまで人口減少が進んでおり、平成18年3月合併時は52,416人であった人口も、平成29年9月末49,357人と3,059人減少(△5.8%)し、将来推計でも2045年には3.8万人、2060年には3.2万人と減少していくことが予想されています。また高齢化率も進行(H18.3 24%→H29.9 29%)しております。

市内は9地域に分かれており、市を東西に横断するJR佐世保線沿線4地域に人口の78%(38,561人)が集中しており、特に、**周辺部の5地域は人口減少と少子高齢化が進行しています。**

財政面では、合併市町村への財政優遇措置が終了する時期を迎えることから、これらの情勢変化を受け止めた行政経営が重要となっており、平成28年度に武雄市行政改革プランを策定し、行政改革の取り組みを進めているところです。平成28年度一般会計では、歳入は253億4141万6千円、歳出244億2281万7千円、経常収支比率が93.7%と大変厳しい状況です。

市役所において想定される**シェアリングエコノミー担当者は1名(兼務)**です。



2. 地域課題とその背景

- 上述のとおり、武雄市のJR佐世保線沿線から離れた地域では、著しい人口減少と少子高齢化が進んでおります。そのうち**A地域(人口約1700人、高齢化率34%)**においては**高齢者等の移動手段として、地域内を循環するコミュニティバス(H29当初:13,244千円の内数)を1日7便運行していますが、1便あたりの利用者が平均0.5人と大変低迷している状況です。**
- 利用者低迷の改善のため、地元の要望により、平成28年1月から**市内中心部までの乗り入れ実証運行を2か月間行いましたが、1便あたり平均0.8人とどまり、乗車人員がゼロの便も全体の51%との結果に終わりました。**
- また、上述のコミュニティバスに加え、**市内中心部へアクセスしている民間事業者のバス路線についても、利用者低迷、バス運転手不足等の理由により、路線撤退の申し入れが発生している状況です。**
- コミュニティバスの利用実績は乏しいものの、一方で自家用車等を持たず、通院や買い物等にコミュニティバスを必要としている者がわずかにいることも事実であり、**過疎地域での移動手段、交通体系のあり方について課題を抱えているところです。**

3. シェアリングエコノミー活用に係る方向性・課題等

- コミュニティバスの利用実績については、定期的に地元の区長会等に報告しており、**地域住民も利用者低迷の課題を認識している**ところです。地元からは利用者増のためのさまざまなアイデア(柔軟な運行経路やダイヤ)がでてきますが、道路運送法等の関連法令、交通事業者等との調整の関係で地域住民のニーズに即した**柔軟な運行が難しい**ところです。
- この課題解決の可能性の一つとしてシェアリングエコノミーに注目しています。**A地域では自家用車を持たずコミュニティバスに頼らざるを得ない人が10名程度存在しています。**一方、公共交通の発達が不十分な地域故、高齢者を含む多くの地域住民が自家用車を所持しています。これらの方々をマッチングさせた相乗りの可能性があり得ると考えています。
- 実施に当たっての課題は、**現在のコミュニティバスは定時定路線型の運行であり予約等の事前手続きが不要であるが、相乗りにより事前手続きが必要になりその手続きの煩雑さがあること、インターネットを利用できない方々がほとんどであること、また、既存のバスやタクシー事業者との調整が必要であること**です。また、**地縁が強い地域故、一度事故が発生すると以後の地域コミュニティに影響が懸念される**ことです。なお、既存法令への抵触の有無については未確認となっています。